



**納涼祭、ギター演奏など新企画も** 3区納涼祭が7月27日(日)、今年も盛大に3区公民館を会場開催されました。午後5時から、この日のために練習を重ねてきた子ども八木節で幕を開けると、地元みずは会が民謡踊りを披露しました。

今年は新たに地元カラオケ同好会のギター演奏によるカラオケの披露がありました。また、子どもたちを参加対象にしたジャンケン大会では松平健に扮した衣装で会場を湧かせました。7時過ぎには祭りを盛り上げるサンバ隊が舞台の花道から登場、来場者も舞台上に上り踊りました。納涼祭のトリを飾るのは八木節愛好会の演奏で会場を最高潮に盛り上げました。



マツケンサンバに乗って登場

例年、同日に開催していた子どもまつりは、近年の猛暑による影響を考慮した結果、安全を第一に開催を秋期に変更となりました。開催日については、回覧板で案内されます。

**課題も** 地区公民館に係わるなかで、協力していただくスタッフが長い期間ほぼ変わらず、人数が減少傾向であることが課題であると思いました。全て変えてしまうと混乱してしまうため、少しではありますが役割の担当や内容の変更を改革の一步と考えて、今年の計画と開催に向けて土台を作って取組みました。(金子)



八木節演奏ではアンコールも

**猛暑のなかで子ども神輿** 3区納涼祭と日と同じくする27日、正午から子ども神輿が区内を練り歩きました。八坂神社で執り行うこの神輿はたらいに水を張ったもので、水をかける風習があります。

猛暑のなかで、水をかけられた子どもたちからは「気持ちいい」と歓声が上がっていました(写真)。



## 散歩道 <あかがね街道と岡上景能> ⑥ 筆者 国井 洋子

### 用水開削

笠懸野の開発地域には、大きな課題がありました。この地域は、大間々扇状地の中ほどに位置し、浅い表土の下は厚い砂礫層のために、地味が悪く、稲作には適さない土地でした。「新田開発」とはいつても、田はなく、実際には畑と林が大部分でした。

景能は渡良瀬川から取水して「笠懸野御用水」を開削しました。本町宿の宿用水だけでなく、さらに農業用水で笠懸野の村々を潤そうとしました。しかし、下流堰に水利権



を持つ農民から反対の訴えがあり、水田に水の必要な夏期には、取り入れ口に三尺の戸を立てて、越水のみしか使用できないという厳しい水取証文の裁許が下りました。このために、鹿の川沼と阿左美沼に冬水を溜めて、農業用水を確保しようとした努力もむなしく、景能の死後には十分な機能をしないままで空堀となってしまいました。幕末から明治にかけて、農民の強い願いのもとに再興され、「岡登用水」として蘇りました。

画像は1900年頃の阿左美沼周辺地図。



## 堀りさらい

令和7年4月26日(土)、朝8時から阿左美沼土地改良区三区組合員による堀りさらいが行われ、水路にたまっている砂利、雑草やゴミを清掃する作業が行われました(写真)。

作業は阿左美沼土地改良区の武井俊一理事長の挨拶で始まりました。掃除が行われた堀りは、阿左美沼の南に広がる3区内の水田に水を引き込む水路全般です。この堀りさらいを皮切りに今年の水稲栽培が始まります。



## 小 沼周辺パンジーを植栽

6月28日(土)午前8時より、阿左美小沼西道路沿いに農地・水阿左美地域環境保全協議会(赤石彰範会長)主催によるマリーゴールドの植栽が行われました。

この協議会は阿左美沼土地改良区役員と1.2.3区の行政区区長さんや各種団体の代表の方々が構成員となって、地域の環境や景観維持を目的として活動しています。

当日は早朝より蒸し暑い中で20名が参加しました。参加者たちは協力し合いながら、手際よく苗の植え付けを進め、鮮やかな花壇が道路沿いに広がりました。暑さに強いマリーゴールドの彩りが猛暑を乗り越えて初冬まで地域の日常に小さな喜びを添え、人々の交流のきっかけとなることが期待されています。



## 夏の花ニチニチソウの植栽



7月20日(日)東武スカイツリーライン友の会(藤生隆行会長)は25人が参加して阿左美駅前の花壇にニチニチソウ苗700株(白・ピンク・薄いピンク・紫)を植栽し、駅前を色鮮やかに彩りました。植栽後はリバティりょうもう号をバックにみんなで写真撮影をしました。

## 育成会がラジオ体操を開催

3区育成会主催のラジオ体操が7月22日(火)から7月26日(土)まで3区公民館で開催されました(写真)。

期間中は毎朝6時45分から実施し、夏休み中でも早起きし有意義な1日を過ごすことを目的にしています。参加者には毎日参加賞(お菓子和冷凍ゼリー)を配っています。最終日には皆勤賞が渡されます。今年から新学期への準備を兼ねて8月25(月)から8月29日(金)にも開催します。



## みどり市笠懸地地域

### 高齢者大学に参加して

7月15日(火)午後1時より笠懸野文化ホールに於いて、みどり市笠懸地地域高齢者大学第I講が開催されました。講師に國井洋子氏を招き「新田荘と天神山石材の流通」について笠懸村と各地を繋ぐ流通の歴史についての講演でした。講演会の概要は以下のとおりです。

笠懸村西鹿田の天神山石材は、鎌倉時代後期から南北朝時代にかけて上野国東部に勢力をはっていた新田氏の保護下で、新田荘を中心に各地に供給されました。ここから産出される凝灰岩は、白色できめ細かく、質の良い石材であったことから、中世には石塔や石仏に盛んに使われました。なかでも五輪塔に最も多く使われています。現在、国や県、市町村の指定文化財になっているものも数多くあります。神社やお寺に残存している石材と笠懸村と各地を繋ぐ流通の歴史について詳しく解説していました。※國井洋子氏は本紙の「あかがね街道と岡上景能」を連載中です。





## 子ども八木節教室35人参加

5月23日(金) 19時より、3区子ども八木節教室の開講式が今年度も開催されました。小学1年生から6年生、中学生の35人が参加し、3区納涼祭や笠懸まつりの披露に向けて練習がスタートしました(写真)。

3区八木節愛好会の方々が講師として、お囃子や踊りを教えていますが、初めて参加する子どもが多いため、覚えるのに時間がかかっているようです。関係者は「お祭りで披露の当日には、子ども達の揃った演奏と踊りを楽しみにしてほしい」と話していました。

## 笠懸東小学校5年生、ゲストティーチャーが農業特別授業



5月13日(火)、東小学校において5年生を対象に地域でお米づくりをしているゲストティーチャーの方から、令和7年度の「おいしいお米作り」の特別授業が行われました。

内容はみどり市の農業の特徴、おいしいお米作り、群馬県の農業の公的

試験研究機関の紹介やいちごの品種開発でした。

質問コーナーでは「お米の種類は何ですか?」「いちごは誰が作っていますか?」「いちごが一番多くとれるのは何月ですか?」などの質問がありました。生徒の質問の真意を理解して直ぐに解りやすく答えるのは難しいといつも感じます。

特別授業終了後、教頭先生から「地域の人たちにも関わっていただき生徒は幸せです」との言葉がこうした血に欠けられていました。

※ゲストティーチャー: PTAや生徒たちは農業体験が少ないなかで田植えを行っていたことから、笠懸東小5年学年主任から田植え体験授業の前に稲作農家に講義を依頼したのが始まりです。

## 岩宿駅南口にビジネスホテル

JR岩宿駅南口にビジネスホテルの建設する計画が、4月11日(金)にみどり市役所で行われた記者会見で発表されました。土地の取得と建設は株式会社野村建設工業(本社桐生市広沢町、野村篤社長)が、関連子会社の株式会社タイムプロデュースが運営します。

計画内容は客室数150室で、内訳はシングル105室、ツイン6室、その他39室となっています。鉄骨造の10階建てで、市内でもっとも高層の建物となります。また、大浴場や露天風呂、サウナ、食事会場を備えています。工期は2025年9月着工、2027年2月完成の予定です。

みどり市では駅南口周辺の整備計画を進めるほか、同駅と阿左美駅の間を市街地を形成する重要な地域と捉えている様子で、そこに3区全域が含まれることから、ビジネスホテルの建設は3区の市街地形成が加速される

かもしれません。

写真: パースを披露する野村社長(左)と須藤市長。



## 子ども育成会で資源ごみ回収

3区育成会活動の資源ごみ回収は、今年度も年3回の開催を予定しています。

第1回目は6月22日(日)に開催し、収入は10,000円でした。育成会の山崎会長「区民皆様に感謝し、3区の子どもたちの為に有効活用いたします」とのこと。

第2回目の予定は下記のとおりです。詳細は回覧板にてご案内します。

●開催場所: 3区公民館 ●開催日時: 11月16日(日) 9:00~11:00

●内容品: 新聞紙、雑誌、段ボール、アルミ缶、スチール缶、ビール瓶、一升瓶(瓶は茶色のみ)

**東小** 学校で田植え 6月10日(火)、小雨のなか午前9時から約2時間にわたり、笠懸東小学校5年生の総合学習でモチ米苗の田植えが行われました。種もみ蒔きは5月26日(月)に行われました。参加者は東小5年生2クラス62名と先生保護者、地域協力者、約20名でした。例年は、午後の時間帯でしたが、高温時の健康を考慮して今後はこの午前の時間帯になるようです。



横に並んで田植え

この日は小雨ということもあり、生徒の健康を考えて作業を縮小し、4アールの5分の一ほどの面積を植えることになりました。作業内容は畝幅30センチ、株間18センチで手作業で植え付けます。

その後地域協力者が田植え機で残りの面積を仕上げてこの日の作業が終わりました。終了時には、生徒がそろって元気にお礼の挨拶をしました。今後は、10月中旬に稲刈り、乾燥、脱穀、を行い、その後もち米配布を行います。



**わかばサロンⅡ** 7月3日(木)午前10時から3区公民館ホールで3区福祉部主催の恒例のわかばサロンⅡが行われました。参加者25名の参加でした。

高齢者を中心に身も心も健康促進をテーマに歌ったり、身体を動かしたりをしました。前半はゲストの大正琴ボランティアの演奏にあわせアニメソング、となりのトトロなどを歌い、後半は福祉部役員さんの指導でボッチャ競技を楽しみました。

3区では、ボッチャ人気もあり、福祉部の森田部長さんは「広報を通して一人でも多くの区民に宣伝してほしい」と話していました。記者も元気を頂く取材となりました。



## 優勝は吉原さん、行政区グラウンドゴルフ大会

第9回行政区グラウンドゴルフ大会が、5月24日(土)に、あすかホールグラウンドゴルフ場で行われました。

今回の大会は参加人数40人(男性26人、女性14人)で男女混合で行われました。栄えある優勝はスコア54(18アンダー)を達成した吉原猛さんでした(写真前列左)。

次回は10月26日(土)に福祉部主催で開催予定で、広く参加者を募集しています。若い人や道具をお持ちでない人も歓迎とのことで、参加者が増え、さらに盛り上げて頂けたらいいですね。

## ちょっとピンぼけ

令和の米騒動と言われ、米の品薄と販売価格が連日多くのメディアで取り上げられています。

米不足の要因は多岐にわたっていますが、大きな影響を与えたのは約50年間に及ぶ減反政策と令和5年の記録的な猛暑と言われています。農林水産省発表の作況指数は[101]で平年並みでしたが、作付け面積の減少や高温障害による大幅な品質低下により指数以上に収量減になったと考えられています。

米の作柄は夏の気温と日照時間、降水量など自然環境に大きな影響を受けます。

それ故に、人々は自然の力、脅威に畏敬の念を抱き、敬い、心の拠り所としている地域の氏神様に

五穀豊穡を祈り、自然の恵みに感謝を捧げてきました。

古来より、米作りは利益だけではなく自然と共生しながら生きていこうとする日本人の生活様式が根底にあります。また、その生き方は労働を通して互いに助け合う共同体意識を育み地域の伝統文化と水田の環境を守り続けているのです。

日本列島における米の品種および栽培方法は、地域ごとに多様性を示しています。各地域に固有の品種や生産技術が存在し、その多様性は特産品として高い評価を受けています。消費者は、価格のみならず精米歩合や調理適性、嗜好など複数の要素を考慮した上で、主食としての米の選択および摂取を推奨いたします。(あ)